



1. ルウンペ (木綿地に絹・木綿切伏) 北海道アイヌ 19世紀 丈124.0cm
2. アットウシ (オヒョウ地に木綿切伏) 樺太アイヌ 19世紀 丈112.0cm
3. 刀下げ帯 (オヒョウと木綿・部分) 北海道アイヌ 19世紀
4. カバラミブ (木綿・衣裳部分) 北海道アイヌ 19-20世紀 静岡市立芹沢銈介美術館蔵

1	2
3	4
6	7

5. カバラミブ (木綿・衣裳部分) 北海道アイヌ 19-20世紀 静岡市立芹沢銈介美術館蔵
6. アイヌ玉首飾り (部分) 北海道アイヌ 19世紀
7. アイヌ玉首飾り (部分) 北海道アイヌ 19世紀
8. イクパスイ (棒酒箸) 4種 北海道アイヌ 最長33.3cm 19世紀



アイヌ工芸

— 祈りの文様 —

2013年
4月2日(火) - 6月2日(日)

Ainu Crafts
— Patterns with a Prayer

[写真] ルウンペ (モスリン地に木綿切伏)
北海道アイヌ 19世紀

月曜休館 (祝日の場合翌日休館) / 10:00-17:00 (入館16:30迄) / 一般1,000円 大高生500円 中小生200円 / 東京都目黒区駒場4-3-33 / TEL 03-3467-4527 / 京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分 / 西館公開日 (旧柳宗悦邸、入館16:00迄) : 会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜日

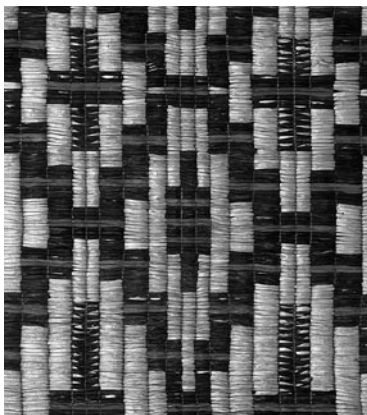
日本民藝館
<http://www.mingeikan.or.jp/>



北海道白老にて 1947年
右より柳宗悦、宮本サク、川上澄生



煙草入れと煙管差し 北海道アイヌ
19世紀 長31.5cm



イナウソ (花萼産・部分)
北海道アイヌ 19-20世紀
静岡市立芹沢銈介美術館蔵

アイヌの人びとは、およそ17-18世紀には現在の北海道全域を中心に千島列島、樺太南部、本州北部の津軽・下北半島まで広範囲に居住や行動の痕跡を残しています。

自然のなかで狩猟採集を中心として生活を営んできたアイヌの人びとにとって、動植物をはじめ山や川、火、雷など、自然そのものが神であり、天地のあらゆるものに靈魂が宿っていると信じ、人間の作った器物もまた靈性をもつと考えました。

衣服や木工品などの生活用具には独特の力強い文様が施されています。彼らはアイヌ文様それ自体に除魔性や呪術性を認め、長い歴史のなかで完成度の高い民族文様を作りだしました。代表的な文様に「モレウ」と呼ばれる渦巻き文と、「棘を持つ」の意味あいの「アイウシ」と呼ばれる括弧文があります。衣服の背に施されたモレウは邪視となって着ている人間を守り、背や袖口や裾周りに刺繍したアイウシは、悪霊の侵入を防ぐとされます。着る人の無事を願う思いを込めた文様です。

アイヌの女性で作った現存する衣服には、オヒョウの木繊維やイラクサで織ったものと、本土から移入した古布で仕立てたものがあります。オヒョウの重くしっかりした布に本土から渡った黒や紺木綿を切伏せしたアットウシ、イラクサの白い布に切伏せしたテタラペ、木綿の衣服にテープ状に細く切った木綿や絹を切伏せしたルウンペ、木綿の衣服に広中の木綿を大きく切り抜いて縫いつけたカパラミプなどです。中でも赤いモスリンのルウンペは世界的にも類例の少ない貴重な品です。

一方男性は木製の器や生活道具を作りました。動物の解体や衣服の切伏せに用いたマキリ(小刀)や煙草入れ、神への祈りを伴う酒儀礼で用いたイクパスイ(捧酒箸)などにもアイヌの文様が刻まれています。

ところで日本民藝館創設者の柳宗悦は、朝鮮半島、沖縄に続き、当時未開の民と見られていたアイヌの文化を讃え、彼らの手による工芸品の美しさを提唱したことでも知られています。

柳は日本民藝館創立から5年目の1941年9月、アイヌ工芸の蒐集・研究家の杉山壽栄男の協力を得て、アイヌ工芸文化展を開催しています。この展覧会は美術館での最初のアイヌ工芸展であり、造形的な価値や美しさの観点から評価し企画されました。広間を含む一階の全てを展示にあてた、染織品・各種木工品・首飾りなど六百余点にも及ぶ大規模な展覧会でした。柳は「それは舊に美しいのみならず、立派でさへあり、神秘でさへあり、其の創造の力の容易ならぬものを感じる」と感嘆の言葉を『工藝』106号アイヌ特集号に「アイヌへの見方」と題して掲載しています。なお柳の信を得て展示の選択をしたのは染色家の芹沢銈介でした。

日本民藝館所蔵のアイヌ工芸資料は、アイヌ玉を中心とした小林泰一コレクションも加わって、染織品・木工品・装飾品など約1,000点に及んでいます。この度は、これら当館蔵の所蔵品を主に静岡市立芹沢銈介美術館より16点を拝借し、合わせて約100点の展示となります。どれも精霊信仰と深く結ばれたアイヌの人々の祈りの暮らしの中で用いられた品です。アイヌ工芸の世界をご堪能ください。

記念講演会 アイヌ工芸にみる文様の変遷

(講師) 長田佳宏 (平取町立二風谷アイヌ文化博物館学芸員)

日時・5月18日(土) 18:00-19:30 料金・300円(入館料別) 定員・100名(要予約)

展示室 1 階

〔玄関〕日本の民窯

当館が所蔵する民窯の優品約20点を展示紹介いたします。民窯とは民衆が使用した器を焼く窯のことで、官窯や藩窯に対する言葉でもあります。展示品は九州諸窯・瀬戸・丹波などの陶器で、主に江戸期以後に作られました。

〔第1室〕沖縄の御絵図と陶器

「御絵図」は琉球王朝時代、貢納する緋を織らせるために作られた原寸大の図で、緋の幾何学的な模様が顔料で色鮮やかに描かれたものです。本展示室では、抱瓶や嘉瓶など独特の器体を持つ、19世紀の壺屋の上焼(施釉陶)を中心に、琉球陶器と御絵図の魅力を紹介します。

〔第2室〕東北の工芸

東北地方は、手仕事の宝庫だと柳宗悦は語っています。本展示室では、各地の民窯で作られた焼物をはじめ、女性の巧みな針仕事による刺子衣裳、藁や樹皮や竹などを材料とする編組品など、主として昭和時代に作られた東北地方の諸工芸の優品を紹介します。

〔第3室〕沖縄の染織

日本の南端に位置する沖縄は、亜熱帯に属し豊かな植生が特徴です。植物から取り出した繊維を衣類に用いるのは、特有の気候に合わせた工夫といえましょう。上布として知られる苧麻や、芭蕉、桐板等を中心に、緋や紅型など沖縄ならではの素材による染織の世界を紹介します。

展示室 2 階

〔大展示室〕 アイヌ工芸 ―祈りの文様

〔第1室〕朝鮮陶磁

当館の所蔵する朝鮮陶磁器の中より、粉青と呼ばれる朝鮮時代初期の白化粧を施した瓶や茶碗などの陶器、黒釉や飴釉で加飾された瓶や壺などの陶器、白磁や染付(青花)・鉄砂などで絵付された壺・瓶・鉢・水滴などの磁器、約50点の優品を紹介します。

〔第2室〕棟方志功と河井寛次郎 ―1930年代

近代美術史上に大きな足跡を残した版画家・棟方志功(1903-1975)と陶芸家・河井寛次郎(1890-1966)。棟方は、当館が開館した1936年に河井と出会い、自らの作風を確立します。河井もこの時期、簡素で力強い作品群を精力的に制作しました。1930年代の二人の作品を振り返ります。

〔第3室〕原始の造形

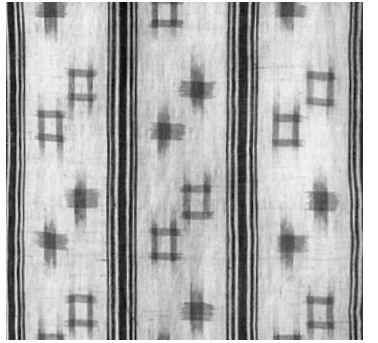
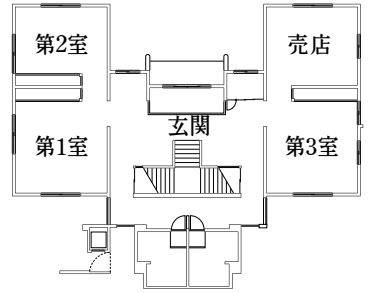
アメリカ先住民やアフリカ諸部族の工芸は、19-20世紀にかけて独自の造形を生み出しました。それらの多くは、自然に寄りそう暮らしや信仰・儀礼と深く関わり、原始の息吹を今に伝えています。併陳する縄文土器などと共に、その力強く豊かな美をご覧ください。

〔第4室〕台湾先住民族の工芸

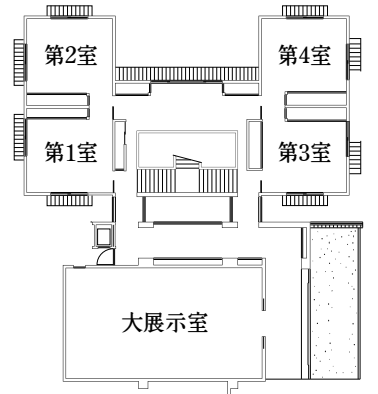
柳宗悦の眼は台湾の先住民族へも向けられ、1943年には現地で工芸の調査蒐集を行い、「南方各地蕃布展」を開催しています。苧麻や木綿、羊毛等を用いた先住民の織物は、浮織の細かい模様や貝珠を織込む等、種族ごとに特徴があります。本展では衣裳とともに、木竹工品や装身具なども紹介します。

関連企画 手技体験・アイヌ文様の木彫と切伏 (講師) 高野繁廣・高野啓子(平取アイヌ文化保存会会員)

5月19日(日) 13:00-16:00 一般3,000円、友の会2,500円 定員・30名(要予約) 協賛・日本民藝協会 ※詳細はお問合せ下さい



〔1階第3室〕苧麻白地経織に緋衣裳(部分)
琉球王朝時代 19世紀



〔2階第1室〕染付水禽文鉢
朝鮮時代 19世紀後半 径38.9cm